

これから夏本番、尿路結石にはご注意を！ 結石発作のメカニズムとは？

文 佐々木裕

text by Hiroshi Sasaki

東京では、桜の時期も終わり日に日に太陽のまぶしさが増す季節になってきました。これからの時期、泌尿器科では尿路結石の患者さんが増えています。

尿路結石とは、尿の通り道にできる結石で、部位によって、腎結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石などと呼ばれます。『三大激痛を伴う疾患』として、胆石、膵炎と並んで尿路結石が昔からいわれているんです。

では、尿路結石の痛みは、なぜ起るのでしょうか？

これは、腎臓と膀胱をつなぐ管、尿管に結石が嵌頓し、腎臓の内圧が上昇すると、腎周囲被膜の神経が過伸展や腎盂の痙攣を起こすことにより結石発作が起こると考えられています。

結石発作で痛い時に、「結石ですからたくさん水分を摂ってくださいね」。これは正しいのでしょうか？

結石による痛みが、結石が移動していることで起こっていると思っっている患者さんがいらっしゃいますが、これは正しいとは言えません。痛みが強い時、つまり結石が嵌頓している時に、

多くの水分を摂取すると利尿が続き、腎臓の内圧がより上昇し、これにより痛みを悪化させる場合があります。よって尿管結石嵌頓の急性期は、水分の過剰摂取を控え、まず痛み止めを使用し安静にしましょう。通常は、こうした激しい痛みは数日以内に収まるのが大半です。5〜7mmぐらいまでの尿路結石は、自然排石する可能性がありまので、痛みが落ち着いたら、排石のために、十分な水分を摂取して歩きましょう。

もう一つ大事なことは、急性期の痛みがなくなると結石が治ったと思う患者さんがいらっしゃいますが、これは必ずしも結石が体外に出たわけではありません。結石がまだ尿管内に残っていて、腎臓の内圧が上昇した状態が続くと腎機能を悪化させることがあります。痛みが治まった後の結石排石の確認も、とても重要なんです。

まずは、結石かと思ったら自己判断せず医療機関を受診して正しい診断を受けましょう。

繰り返ししますが、結石嵌頓による急性期の痛みでは、水分の摂りすぎには

注意しましょう。痛みを悪化させているかもしれませんので。

Profile

佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師
1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がん研究・診断・治療を行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US前立腺融合標的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。多くのがん患者さんが不安を持つなかで、少しでも安心に変えられるような施設の必要性を感じ、2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。メンズヘルス医学会テストステロン治療認定医として男性更年期外来も行っている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように